



# 福祉と住環境を考える ふくてつく

2005年 5月  
第64号

特定非営利活動法人  
ふくてつく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F 1イグリスL  
TEL/FAX 06-6614-6800 ホームページ http://www.occn.zaq.ne.jp/fukutech/



4月9日、水間鉄道にゆられて約6km、水間駅は春うらら。バスものんびりと次の便まで1時間待ちだ。

## ほの字の里 見学記

悠々たる時の流れに身を任せてバス停を一駅歩くと、水間観音に着く。我々の参拝を待っていたかのよう満を持した桜が咲きほころんで迎える。見事という他ない。木造伽藍のすばらしさに長岩さんの講釈も熱がこもる。  
やがてやってきたバスに乗り込んで蕎原(そがら)に着くともう昼だ。のどかな田園風景の小高い丘に、ほの字の里ののぼりを見つ

ける。元は小学校だったそうでアプローチはすばらしい桜並木の坂道。往時の伸びやかな登校風景を彷彿とさせる。こんな学舎だったら、うだけで子どもたちの心を豊に育んだことだらう。  
卑しい我らのこと。まずは腹ごしらえという事で、満開の桜の下に陣取りを楽しむ。風もおだやかに絶好の花見酒となった。持ち込みはご遠慮くださいとのことだったが、池端さんの遠大な思慮(これを遠慮という?)もあって、特殊な蒸発性飲料が心を潤す。有馬さんがコンビニでつくりゆで卵と信じて購入された生卵も、炭火の上で大変身。ピーナッツやくるみ、するめ等もちよつとあぶればいっそう美味。では、えびのしっぽや殻までもしつかり味わうしたたかさ。近年にないすばらしい花見の宴はいつてるともなく続くとであったが、そうはしてもおれないと、かろうじて理性を寄り戻して一同木工室



に向かう。木工室はなぜかそば打ち道場と同居している。ころあいの広さで、様々な工具や作業台と木工材料・作品が並べられている。木のおもちゃがキットで用意されており、木製の瀨戸物(セット物)とはこれいかに。そういえば、となりに陶芸教室もあるからなのだろうか。  
何組かの親子連れが館長の指導をうけて木工に励む様子を見せて頂き、またいろいろと説明を伺う。1組の夫婦がそば打ちを始めた。若い指導員がついて丁寧に手ほどきしてくれる。正方形に拡がるのが不思議

だ。取り囲んでにぎやかに冷やかしを入れながら、すっかり仲良しになってしまったが、蕎原は分けてもらえなかった。  
さて、次はもう一つのお目当て、美人の湯だ。露天風呂もあって、これがまた桜の下。るりとした湯の肌触り、聞けば龍神温泉の水系とか。地の人も自然とうち解けて語りながらの湯は、実によく暖まる。2時間入ろうよと、一番張り切っていた池端さんが真っ先に降参。1時間もすれば、全員すっかり堪能してしまつた。そこで、残っていた特殊飲料の最後の1を6人で分けて飲み干すと、まあ極楽の極みとはこのことか。  
バスまでは、まだだいぶ時間がある。グラウンドを利用した遊び場や、芝の斜につくられたバターゴルフ場、隅のほうにたたずむ炭焼き小屋などを見聞。バス・水間鉄道を乗り継いで帰れば、ちょうどいい一日の完というところでありました。  
参加は有馬・池端・長岩・葛西・光川そして中北の6名でした。来年もまた行こうよ!  
(中北 清)

## 設計部見学会

### ビオスの丘 和久田苑

春の気配を感じさせる光の中、しかし生駒山から吹いてくる風は冷たいね。2月25日杉浦さん・磯田さん・磯田設計事務所のスッタフさん・小川さん・郷戸(社)仁風会特養護老人ホーム(ディサービス)ビオスの丘・ビオスの丘(増築)・ケアハウス和久田苑の見学に行ってきた。



4階建て延積約4000㎡とボリュームのある建物です。外装は明るくあたたかい光を放っているような黄系の柑子(こうじ)色の

近似色、バルコニーは木製でデザインされておしゃれです。内部は住宅感覚を意識してか床・腰壁・一部天井とふんだんに木が使用されています。ロビーに設置されているベンチも3人掛けの木製です。その手すりは肘かけ部分を上手にアレンジしてデザイン的にも機能的にもよく出来ていて参加者からは花○でした。喫茶コーナーに設置されている椅子の脚部にテニスボールを切りはめ込んであります。これで椅子の移動がスムーズになりますし床を傷つけることがないので妙案です。  
露天風呂(風)の浴室があれという事で期待していたのですが、ご使用

中とのことで残念。しかし頂いたパンフレットで雰囲気は掴めました。他の浴室はさわらの木・石張り(花崗岩)とあります。どちらでも取り外し可能なステンレス製の手すりを設置してあり入浴しやすくしていました。これも花○です。脱衣室の床材は夏涼しく冬暖かくということ、竹製のタイル張りです。かびも出現してないそうです。



ビオスの丘はもうすでに入居されていたので居室は見学できませんでしたが、ビオスの丘は竣工間近とあって、隅々まで見学。こちらは1フロア6人のユニットケアです。ビオスの丘よりはコスト的に制約があった大変との説明でした。

壁も石張りで説明がなかったらホテルみたい。とても広くてびっくりしました。また操作パネルを対で操作しやすくするために注に張りで作製されていて、これは設計者の苦心の作です。  
車椅子用のトイレは床も壁も石張りで説明がなかったらホテルみたい。とても広くてびっくりしました。また操作パネルを対で操作しやすくするために注に張りで作製されていて、これは設計者の苦心の作です。



個室のトイレ：3枚引戸で左右から開けられる

個室のトイレの建具は3枚の引き戸です。左右どちらからも出入り、開閉でき使いやすく便利です。これは注ということですが約20万円ということでした。  
共有空間としては狭いのですが、間接照明を使用することで工夫されています。  
ビオスの丘は予算もあり建築材も本物を多用していましたがビオスの丘は限られた中で壁は○○風、各居室の仕切り建具も○○風と・・・しかし一が見てもそう変わらないかも・・・ネ。  
この施設も8日見学させていただいた、ジオ・アーキネットの設計監理ということでした。駅までの送迎も頂き感謝感激の見学者達でした。(郷戸 敦子)

## 定例会のお知らせ

日時	場所	講師
6月 13日 13時 30分	大阪市立社会福祉センター 3階会議室	「最近の老人ホームの概要と事例」 る今後の設計課題 講師 原 恵一氏・井戸田 精一氏
7月 13日 13時 30分	大阪市立社会福祉センター 3階会議室	未定

### ことば・コトバ

センター方式  
認知症の人への新しいケアマネジメントの方法「センター方式」が広まりつつある。本人の細かな情報を、独自シートに担当者らが協力して記録、情報を共有して日々のケアに生かす。  
どんな状態になっても、人としての尊厳を大切にしたい。支える、という考え方に基づいていく。  
介護を受ける人の個人的な記録は、ふつう氏名、住所、健康状態など、厚生労働省の「課題分析標準項目」(23項目)に基づき、ケアを行う事業所ごとにまとめられる。「センター方式」は、これとは、  
「認知症に気づいてからの経過」過去の仕事や好きなことなど、家族の悩みや要望  
「本人の発言、生活リズムなど」  
5種類計5枚のシートを必要に応じて使い、ヘルパーや施設の職員、家族で書き込む。  
個人情報保護徹底を促す注意書きも添えられている。  
実施した介護専門職の8割が何らかの成を実感。  
センター方式のシートは、「いつどこでネット」  
(http://www.itsu-doko.net/download/01.html)から無料でダウンロードできる。  
(読売新聞17年4月23日)





大阪で歴史的にも由緒ある平野郷で「DIY日曜大工講座」が平野人権文化センターにて3月2日より毎週水曜日18時30分〜20時30分全5回に亘って開催されました。

# 日曜大工講座

初回の参加者は24名で最後まで参加されたのは20名を下らなかった程の盛り上がりでした。熱心に真剣に和気あいあいの中で適度



最終日には地震対策、住宅改修についての相談を受けました。時間的な制約から説明不足となり、一部理解されなかつた点もありました。今後は十分な相談時間を設けて説明する必要がありますのではと思っています。

(有馬 定夫)

# 有料老人ホームでの経験



3月定例学習会  
平成23年3月5日  
介護福祉士  
木村 多加緒氏

私は、学校を卒業して三洋電機入社以来ずっと商品開発に携わってきまして、1990年頃倉敷に有料老人ホームの計画があったので、三洋電機に昇降式キッチンを作れないかという要請がありました。当時私は広島の営業責任者でありましたので、会社に提案したのですが、なかなか理解を得られず、頓挫しかかっていました。その時の設計者がかり切りになっている姿や、あきらめずにやりす情熱にうたれました。お

かげで商品開発に成功して1991年に同時に完成した昇降式洗台と併せて発売しましたが、現在もほとんど当時のまま販売されています。その後、当時ほどの精力が開発に費やされてい

ちようど売り始めていた頃に阪神大震災がありました。西宮の青葉苑に寄付してもらえないかという話があった。試作品で売り物にはできないものを納めさせていただいたのですが、その時のふくてっくの皆さんの

の実に楽しい活動雰囲気が大変気に入ったのです。また、リュックに大工工具を入れて被災地を歩くと、いろいろと役だつて喜ばれたので日曜大工にも興味を持ち始めたのです。縁というのは不思議なもので、1999年に今度は三洋電機が倉敷に有料老人ホーム(サン・オークス倉敷)を建てることになり、自分がそこに行くことになりました。倉敷はともいい町です。5才になったらまた住んでみたい。病院も公園もなにもかも5分で行ける。地方の中核都市というのはそういういいもっています。一方、今暮らしている枚方の牧野では映画をみるのも30分、交費

は1000円かかってしまっています。

ホームに私が着任した時にはコンセプトがすっかり固まっていました。当時は有料老人ホームというと、

裕福で介護もあまりいらぬ人がのんびりするところというイメージでした。けれども開所当時から要介護者が予想以上に増え、新築1年で改修しなければならなくなりました。また認知症の方への対応を学ぶために岡山の専門の施設に泊まりがけの研修にもでかけました。認知症の方が残している感性を頼りにどのようにコミュニケーションを図ることができるかという介護ソフトの再構築が必要だったので。また一方最近では小規模でローコストな施設がどんどん増えています。例えばアミューという特定施設では、月に5万円くらいで暮らせるのです。

サン・オークスは8階建てマンション風で各室独立していますので、スタッフは全員PHSをもって活動しています。2000年初めから「こせこせ」というシステムで行動を見守りながら自由な散歩を楽しんでいただくと、大変落ち着かれたりよい結につながりました。また赤外線セン

サーを活用して、離床の際の転倒事故防止や無用な拘束の解除を進め、あるいは行動パターンを情報として蓄積することで適切なトイレ介助などにも役立てることができています。

私はこれまで、何に取組む場合も常に前向きにチャレンジしてきましたが、今度の仕事は今までと全く違った仕事だったので。全てが1から勉強しました。ヘルパー2級も取得しましたが、受講者はみんな女性で大変緊張したもので

す。介護福祉士、これは学校に行けばだれでもとれるのですが、そうでない現実業務経験や実技試験など、なかなか大変です。それにこの年齢になって受けるのも大変。5年務めてケアマネージャの受験資格を得、実務講習を受けています。初めはケアマネージャーとして仕事をするつもりではなかったのですが、今は結構おもしろく感じています。

介護サービスには訪問、所、短期入所、施設(介護保険3施設)特養・老健・療養病床)と、介護保険3施設とは異なる施設として特定施設入所者生活介護(有料老人ホーム)と認知症対応型共同生活介護(グ

ループホーム)があります。

有料老人ホームといっているところあって、生活費は月1万円〜100万円と大きな幅があり(サン・オークスは中くらい)今もびているのは介護付き有料老人ホームといわれるもので、建築コストが圧倒的に安いのが特徴です。新しい提案として、地域密着型小規模多機能ハウスというものがあります。今、枚方でボランティアしているグループホームのオーナーが

将来の夢として考えているので、いろいろと調べています。介護保険サービスの趨勢として、これからは都道府県に替わって市町村が認可するようになるようです。特養での利用者負担が増える一方、安価な供給が多様化します。

高齢者とはいえ介護が必要にならない人は案外多いものです。サン・オークスでも入居時より状況がよくなる人がいます。自由に動くことによって回復するのです。5才超で要介護2%といっても全て寝たきりではありません。介護保険が始まって、いろんなデータが公表されています。サービス受給者数は全体では3%増ですが内訳を見る

# 子ども

## 木工教室

★ エフ・エー

3月27日(日) 10時〜15時 大長ハウスにて

ようやく重いコートにさよならの、春休み最後の日曜日、暖かい日差しの中、すっかりおなじみになった「エフ・エーさん主催・春の木工教室」が開催されました。

いつものり会場の準備を整え、生徒さんたちの来場を待つ開催前のひと時、うまいコーヒーをい

たいただいて、さあいよいよ開始。あつという間に場内は大賑わい。会場は阿倍野区松虫にある「大長ハウスの屋外スペース」



たいもの思いを馳せ、楽しい工作にお気に入りの材料をふんだんに使ってもらえる事が出来ました。

今回は皆さんに、夫々好きなものを作っていたで、自由工作に取り組んでもらいました。ママと一緒に小さな手で「のこぎりやかなづち」を握って一所懸命、使っている様子を見ると、実にほほえましいものです。

一方、午前の部、午後の部にわたって「実用の大型BOX」を完成させたお母さんもおりましたよ。(親子木工教室? いやいやママの日曜大工)

エフ・エーの皆さん、大長ハウスの皆さん大変お世話になりありがとうございます

加の皆さんには、作り

と要支援、要介護1の伸びが大きい。このあたりの人は自分が動くときよくあります。サービスには居宅サービスが伸び、施設サービスは横ばい。居宅サービスの内訳では訪問介護、所介護、福祉用具貸与の伸びが大きい。グループホームと特定施設が2〜3倍になっているのが特筆されます。

「最終的にはどこで住むか」という間に皆、家がいよいよいいです。それには住宅改修が必要です。病気がたら老健に在る間にリハビリして、住宅改修をして復帰するのが有効と厚労省も考えているようです。とにかく日本の家は危険が多く、心配で施設入所を余儀なくしています。その原因を解消する住宅改修が重要な意義をもっている。その上で住宅ではまかなえない部分を施設所で補い、さらにそれでもだめな場合に施設となるのですが、施設サービスも多様化が好ましい。けれども結局はお金しだいという所もあるでしょう。ふくてっくも住宅改修というところで益々社会貢献できそうです。

(記 中北 清)



ました。ご参加の皆さまへ、これからも木工を大いに楽しんで下さい。きつとまたお会いしましょう。

ふくてっくメンバー 有馬、杉浦、八木(八)、長岩、光川、池端。(池端 一義)

# ★ 小阪カルチャースクール



3月31日(木)春休み平日での木工教室でした。小阪カルチャースクールから事務局に依頼の電話があり、杉浦さんが見本を作り1ヶ月前に打ち合わせに行

きました。前日までの参加申込みは6名でしたが、当日は5名の参加と少人数でした。当日スタッフは有馬さん、長岩さん、光川の3名で、搬入・搬出も行いました。

主催者はたとえ人数が少なくても行ってほしいとの意向で、ふくてっくとしても昨年の夏休みに木工教室を行ったという経緯があり、お受けすることになりました。

子ども達はノコギリを使ったり、ペンキを塗ったりと楽しくやっています。そして夏休みもまた来ると言って帰って行く姿を見て嬉しく思いました。(光川 環代)



# 住宅改修事例報告

住吉区一邸 77歳 男性

閑静な住宅地に建つ依頼者一さん宅に1月末にケアマネージャーさんと後藤さんと小川で住宅改修初期診断に行ってきました。一さんは現在77歳、夫婦2人で生活しておられ介護度3で、家の中を自由に歩く事は出来るのですが内臓に疾患を持っておられ、オムツを着用されていました。希望の改修内容は、玄関上り框、便所、浴室に手摺と、階段に手摺とすべり止めという事でした。階段には両側手摺を、玄関には縦手摺を「あればよかる



う！」でケアマネージャーさんとの話も出来ていた様です。便所と浴室については「どの様にすれば良いか？」という事で、便所については立ち上りの為と大便の時の座保持用との事でした。用をたしている時間が長く息むのが大変だという事で、便器前に動作を確認しながら横手摺の高さを



決定しました。浴室は浴槽またぎ用に横手摺との事でしたが出入口に段差があったのと、またぎ寸法も大きかったので、スノコを提案しました。日常動作の確認で「浴槽からの立ち上りはどうですか？」に「ヨッコーショと縁を持って立つ」との事。危険だと感じ手摺を持って立てる様に横手摺を1本追加する事にしました。

めました(身体上理由)。いつも思いますが「普段どの様に使用されていますか？」と簡単に聞かれます。どこまで実際の行動がされているのか。みんなが見ている所で、その場合は普通にしているつもりでも。実際、今回の様に工事前に本人がシミュレーションして不便とわかるケースは少ないのではないかと思います。工事完成後日に一さんを尋ねると大変喜んでくださり、トイレも使い易く、何より風呂に入るのに『危なくなくなった』のが良かったと言って頂きました。また、一つ私も喜びを頂きました。(小川 忠雄)

## 研修部

### 住宅改修事例検討会

2月5日より3回にわたって住宅改修研修会がありました。1回目は2つの例題に対しての説明があり、参加者が2組に分かれ、それぞれ担当の例題に対して住宅改修案を後日発表検討するという形で始めました。例題とはいえ

実際に改修を行った事例であり、住居、家族構成・関係、身体状況等は住宅改修相談票に細かく記されていました。しかし、どれも細かい書き込まれていても実際に訪問せず相談者に会わずして計画する事の難しさも解りました。(実際にには有り得ない事ですが3月5日に2回目として計画案を持ち寄って話し合いました。相談者は小脳失調、四肢麻痺の2歳の女の子に対する改修でした。条件は、増築有り、金額制限無しと恵まれたが、色々な計画案が出ました。各案に対して何を重視したか、何処が苦労したか等、又、少し使いつらくないか、この身体状況では無理等、意見もたくさん出ました。全体としては家族との関わりと日常生活(休息の場)は何処でしているのか?そして小脳失調に対する改修で、現状何処まで?今後の回復?が主な論点となりました。

4月9日に3回目として相談者は頸椎損傷の2歳の女性に対する改善でした。こちらは出来るだけ軽微にお金をかけない事が条件で、こちらも前回にも増して色々な計画案が提示されました。論点は便所、浴室の配置となりました。現状に少し手を加えて使用や、便所だけ、又はシャワー室も新設する等、色々なパターンが出ました。その中でも車椅子での便器へのアプローチ、浴室・シャワー室でのシャワー椅子の使用に対する空間(保管場所も含めて)が問題となりました。

て色々な計画案が提示されました。論点は便所、浴室の配置となりました。現状に少し手を加えて使用や、便所だけ、又はシャワー室も新設する等、色々なパターンが出ました。その中でも車椅子での便器へのアプローチ、浴室・シャワー室でのシャワー椅子の使用に対する空間(保管場所も含めて)が問題となりました。



(小川 忠雄)

# 地域福祉の限界



4月定例会学舎会

平成17年4月2日

宇治市市会議員

平田 研一氏

以前に畑先生の事務所に世話になっていました頃、医療・福祉の建築設計に携わる中で山井和則さんとの出会いがあった。山井さんは当時奈良女子大学の教員で、日本で最初にグループホームの名を認知させた人だ。私もそれまでは経営サイドからしか福祉・医療をみていなかったが、始めて利用者の立場から問い直すということを知った。

神戸に住んでいた頃に、阪神大震災で被災した。神戸の街は被害がひどく、建築士としての限界と責任

を感じた。住んでいたマンションは大きなダメージはなかったが、街の段階的開発や棟ごとの入居者層の違いがあって、自治会が成立しない。また、神戸空港の問題にしても、多くの市民は賛成できないとしているのに、計画はどんどん進んでしまう。一体誰が決めているのかという不満があった。そんなことで神戸に見切りをつけて(神戸はあこがれるだけで住むところではない)宇治へ転居したのだが、そこで山井さんと再開することになった。

宇治で山井さんとグループホームづくりに関わる。ところが山井さんが60歳で立候補するという事になり、政治家とはつきあわない主義であったので関係を断った。結として人口20万人の宇治市では中学校区にひとつ、9カ所のグループホームができた。最初の選挙で山井さんは落選し、またつきあいが始まる。

私は、宇治のまちが好きで引越してきて愛着があった。そんな中、宇治市まちづくり委員公募があり、一公募に応募したところ希望していた福祉部門ではなく建設部門の委員として選ばれた。宇治はユニチ

力の城下町として発展してきた町で、もともと都市計画というものも、まちの中心もない。これは都市計画上大きな課題だ。例えば道路を少し拡張しようとしても、図に線は引けるが、そんなことはできっこない。再び建築士としての限界を感じた。結局は市民の意識レベルを高めるしかない。

やがて私自身、まちづくりは人づくりの思いで育友会(PTA)に首をつっこむようになる。早速、副会長に選ばれたが、PTAとこの頃はえらいところで、規約の内容も文章もおかしい。親たちは、とにかく我が子さえよければよくて、役員・委員といったしんどい役割を逃れることしか考えていないのだ。そこで、そんな規約の改正を断行した。次の年は事務所を独立して大変だったのでPTAはお休みし、その次の年に会長に就任した。

そんな折、山井さんが小選挙区から立候補することになり、後援会事務局長をつとめることになった。党公認候補となるには、応援してくれる地方議員の数もポイントとなる。突然退任する市会議員がでてしまい、その後任候補探しを

していたが、いつのまにかそれが私に回ってきた。そんなことは、いやでいやで逃げ回っていたが、最後は山井さんに毎週東京からやってきて説得された。もう投票日までいく日も日がない。いきなり挨拶回りやら駅立ちをやらされ、こんなはずではなかったと思っただが、もう後の祭り。まあ、当選するわけではないと、それでみんなの気が済めばというくらいの気持ちであった。ところが、意外にも1823票を集めて当選してしまっただけは、これでは社を畳まなければいけないのかとも思った。後でわかったのだが選挙中は訳もわからないまま400万円くらいの出費があり、100万ほどの寄付はいたっていたものの、差し引いてもえらい出費だ。

議員の報酬は、宇治市の場合月給5万5千円だが、いろいろ引かれて手取りは30万ほど、これに政務調査費が月2万円つくが、やはりは大変だ。年に4回の議会が開催され、30日の会期中に議論するのはせいぜい5日だが、連絡が有れば一時間以内ですぐ戻らねばならない。どこかの委員会に入らないといけないし、

政庁活動では毎月2回幹事会、それに各種パーティが毎月4回くらいある。パーティは一応招待という事になっていくが、慣例上、一参加費以上のお金を参加費として持つていかねばならない。それに議員をしているとPTAや地域活動で様々な役をもらうので、とにかく休めない、本業もそっちのけとなり、しかも経済的につらい。なんで議員やってるのが判らない。

宇治小学校事件があったが、児童を襲った不審者が精神疾患を持つ方で、大きな社会問題となった。その際に、私が議会でした発言を巡って、精神障害者の人権を擁護する団体の反発を買って、徹底的にたたかれた。それはもう糾弾であり、話し合いでもなんでもない。一方、地域の安全を、という側からも嫌われる。市民はそれぞれ勝手なことをいうし、議員の中には意外なほど福祉に関する知識や見識を欠く人もいる。人権はデリケートな課題だ。でも、誰かが言わねばならない。

宇治市には平等院があり、ここから西側(浄土)の方向にマンションなどが無秩序に建とうとしてい

る。行政も弱腰で無策だが、デベロッパも設計士もデザイン能力がない。景観条例を整備して取り組みたいと考えている。

今、医療と福祉がまったく違う方向に行こうとしている。医療はアメリカが最先端だが、日本はアメリカに比して人口半分で医療機関は倍もある。アメリカの医療は高額だと言われているが、ごく一部の超高額医療が平均をあげているのであって、これらを除くとかえって日本の方が高額なのだ。医療ミスで死亡させる病院を指導するシステムがない。行政は、人がこころ変わるから専門家が育たないのが現状だ。

地域にいろんなことが期待されているが、遅れているのは精神障害者福祉。次におかれているのは子育て支援策だ。有権者としての高齢者の権利意識は高く、障害者福祉にお金が回らないのだ。議員として、市民の声を偏ることなく聞き取る仕組みをつくらねばならない。取り組む必要のある課題は沢山ある。もっと勉強が必要だ。(記 中北 清)